

2020年6月の行事予定表

1	月		16	火	
2	火		17	水	聖書の学びと祈り会
3	水	聖書の学びと祈り会	18	木	祈禱会
4	木	祈禱会	19	金	朝の祈り会
5	金	朝の祈り	20	土	
6	土		21	日	礼拝式、各会の例会日
7	日	総員礼拝式、聖餐式、教会役員会	22	月	
8	月		23	火	
9	火		24	水	聖書の学びと祈り会
10	水	聖書の学びと祈り会	25	木	祈禱会
11	木	祈禱会	26	金	朝の祈り会
12	金	朝の祈り会	27	土	
13	土		28	日	礼拝式、各部会
14	日	礼拝式、奉仕の日	29	月	
15	月		30	火	

6月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます。

編集後記

- ◇ 今月は D 兄のレポートと心の聖句カレンダーをお届けいたしました。いかがだったでしょうか？
- ◇ 緊急事態宣言も解除され、通常の礼拝に感謝！！  
ただ、まだ十分な注意と対策は必要な状況です。  
一人一人が出来ることをしっかり行っていきましょう。
- ◇ 主の恵みがこの教会に注がれますよう祈りつつ・・・。

(編集部)

# 教会月報

2020年6月

No.350

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

## 黄金律 ゴールデンルール

「だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言書である。」  
新約聖書 マタイ福音書7章12節

古今東西、思想や宗教、人種を超えて黄金律と言われるゴールデン・ルールを否定する人はいないと思われまます。なぜならば、キリスト教倫理における普遍的真理を言い表しているからに他ならないと考えるからです。

さて、イエス・キリストは究極的な愛を示す言葉として、一般的には「隣人を愛し、敵を憎め」と言われるが、イエスはそのことを知った上で「敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい」と奨められています。

今や、世界中の人々がこの真理を会得し、皆でこのコロナ危機という困難な時期を乗り越えていきたいと願います。

ところで、現在の世界や日本国内のニュースを聞くにつけ、大きな失望に陥ります。と言いますのは、あまりにも自国ファーストであったり、自己の姿をありのまま見つめない症候群におかされている各国の指導者達が多いと感じるからであります。だれもが何らかの事柄で失敗することもあるでしょう、人間である限り。その時、赤裸々に謝罪し、全ての情報を開示して、批判を堂々と仰ぐべきであります。

新型コロナウイルスによる 21 世紀型パンデミック(世界的大流行)は 世界に大きな変化をもたらせました。もはや以前の体制に戻れなくなり、働き方も流動性がもたらせられることでしょう。社会や文化、経済も政治もありとあらゆる場面で変化が求められます。宗教界でも同様であります。この変化に対応できるものが将来を担うのではないのでしょうか？

牧師 永松 清

# 『厚生労働省水際作戦に参加して』



H.D.

※新型コロナウイルス対策のため、4月初旬から大変な任務に当たられたD兄のインタビュー記事です。

Q1：どのような経緯で、厚生労働省の「水際作戦」に参加されたのですか。

新型コロナウイルス感染症への対応について、厚生労働省の後輩に、メールである提案をしました。4月3日の夜のことで、すると翌日早々に、4月6日から大型連休明けまで、“防衛省が施設（グランドヒル市ヶ谷）を厚生労働省に提供してくれるので、厚生労働省の顔として施設運営の責任者になって欲しい”とのこと。14年前に退職した者に、“厚生労働省の顔”として働いてくれというのは例が無いことですが、後輩が嘗てのノリで先輩を当てにしているのならと考え、即座にOKと答えました。

Q2：厚生労働省の水際作戦とは、どのようなものですか？

当時、新型コロナウイルス感染症の第二波が襲っており、その感染源は海外からの帰国者・旅行者でした。そこで政府は、日本人帰国者全員にPCR検査を実施し、陽性者を隔離する検査を行っておりました。これが“水際作戦”の入り口です。PCR検査は時間を要するため、結果を待つ帰国者が空港で溢れかえり、雑魚寝同様の待遇に批判が集中したため、宿泊施設を用意することになりました（二泊三日）。この待機時間中に、2週間の滞在先（自宅・ホテル等）を自分で確保し、更に移動手段として公共交通機関を使わない、ということを経国者に求め、実行して貰うというのが“水際作戦”の本体部分です。しかしながら、当時は感染を恐れ、都内で協力するホテルが見当たらず、厚生労働省が苦慮していたところ、河野防衛大臣が、防衛省の関連施設を提供すると厚生労働大臣に提案したのです。但し、施設の運営責任者を、厚生労働省から出すようにと。

Q3：その水際作戦は、実際にはどのようなものだったのでしょうか。

夕方、羽田空港から断続的に疲れた帰国者の方々が専用バスで到着し、遅い時は22時を過ぎることもあり。食事・飲み物を提供するの、部屋から一歩も出ないようにと指示し、翌日の11時まで上述の内容を自分で確保するよう要請しました。ですから、様々な質問、要望、苦情、啞然とするクレマー、予期せぬ事態が続出しました。毎日、新しい帰国者が入ってくるので同じ事の繰り返しです。更にPCR検査陽性者に対しては、防護服を着用し、相手を気遣いながら説明し、手配した病院に移っていただきました。

Q4：今回の活動で示されたことは何ですか？

実は、日毎の糧を教会員の皆さんに送ることが大きな負担となっていました。み言葉の後に余計なコメントを追加していたからです。何度も止めようと思いましたが、その度に、「日毎の糧」が、心に突き刺さって来ました。任務を終えた今、確かにみ言葉によって養われた一か月であったと実感しています。皆さんのお祈りに感謝します。

終わりに、ポストコロナ社会において、“分断”ということが大きな課題として挙げられています。我々の水際作戦には、新型コロナウイルス感染症の伝播者として“分断”された帰国者の方々を、元の社会へ繋ぐという役割がありました。自衛隊のバイオテロ対応並みの感染防御を身にまといつつも、真心込めて食事を作り、丹念に部屋を清掃し、無茶な要求にも笑顔で対応していたスタッフから、“分断”を克服するあるべき姿を学びました。“分断”は、我々自身が行っているものです。それを克服できるのは、我々自身にほかなりません。自分自身に何が必要か、主のみ言葉が突き刺さります。



※写真は市ヶ谷初日の様子（中央にD兄）

# 「心の聖句カレンダー」



岡山ナザレン教会は、新型コロナウイルス感染症対策として3月22日（日）からの礼拝は基本的にインターネット動画配信形式となりました。そこで、朝の聖句として「日ごとの糧」、夕べのみ言葉として皆さんから「心の聖句」が募集されて、毎日配信されたものをカレンダーにしてみました。（日ごとの糧は週報に掲載）

※敬称略

日	月	火	水	木	金	土
	4/20 I.S.姉 コヘルト (伝道者) 3章1節	4/21 E.S.姉 ヨハネ福音 書3章16節	4/22 A.Y.姉 ヨハネ福音書 14章6節	4/23 K.F.姉 Iコリント 10章13節	4/24 高齢者 (ペンネーム) 詩編22篇 25節	4/25 「新型コロナ ウイルス 感染症に苦しむ世界 のための祈り」
4/26 A.Y.姉 ローマ書 8章18節	4/27 K.E.姉 ローマ書 5章3節	4/28 S.M.姉 Iコリント 書1章10節	4/29 S.O.姉 ヨハネ黙示録 22章12~ 13節	4/30 K.O.姉 マタイ福音 書16章 24-25節・マタイ 福音18章 18-20節・ ヨブ記42 章2節	5/1 K.O.姉 詩篇73編 28節 ヘブル書 11章1節	5/2 K.O.姉 詩篇130 編5-6節
5/3 K.O.姉 イザヤ書 65章18節	5/4 K.O.姉 イザヤ書 41章10節	5/5 鯉のぼり (ペンネーム) 創世記 22章14節	5/6 鯉のぼり (ペンネーム) 箴言30章 7~9節	5/7 鯉のぼり (ペンネーム) ヨハネ第一 4章9,10節	5/8 M.M.姉 ヨハネ福音 書14章1節	5/9 S.O.姉 新聖歌89番
5/10 P.Y.姉 ヨハネ福音 書1章1~ 7節	5/11 R.K.姉 ヨハネ第一 4章16節	5/12 R.K.姉 ローマ書 12章11節	5/13 R.K.姉 Iコリント書 13章13節	5/14 R.K.姉 コロサイ書 3章13節	5/15 R.K.姉 マタイ福音 書 4章4節	5/16 K.E.姉 ヨハネ福音 書 15章5節
5/17 淑子先生 ヤコブ書 5章13節	5/18 淑子先生 詩編 46編2節	5/19 淑子先生 Iペテロ 1章24,25節	5/20 Y.O.師 コヘルト 3章1-8節	5/21 N.D.姉 出エジプト 記40章 36,37節	5/22 S.K.兄 日めくりカ レンダー 書写	5/23 S.K.兄 日めくりカ レンダー 書写

※24日~30日の分は次月に掲載します。